2019 年 10 月 1 日　A グループ　呉

阿部彩『子どもの貧困―日本の不平等を考える』岩波書店、2008 年

第 3 章　だれのための政策か

●問題提起

「日本の政府が、まず、取り組むべきなのは、この『逆機能』を解消することである。」(p101,L9~10)とありますが、実際にどのような方法で、この逆機能を解消することが出来ると考えますか？

●選んだ理由

本書では、日本の子どもの貧困率の上昇の要因として、税制度や社会保障制度などによる所得再分配の不備が挙げられている。本来、このシステムは先進諸国において貧困世帯の負担を少なくするよう設計されていたり、負担が多くてもそれ以上の給付をすることで子供の貧困率の大幅な低減に貢献している（p98)。しかし、日本では所得再分配の中での貧困層の負担が先進諸国と比べて大きく、この構造が貧困率の悪化に直結していることが述べられている（p99 表 3－3)。つまり、子供の貧困率に良い影響を与えるはずの政府の機能が、逆効果になってしまっている。これを逆機能と呼ぶ。

本来良い方向で作用するはずの機能が、悪い方向に作用してしまっている現状を打開することが、子供の貧困率の低減につながると思うので、そのための策を各グループで議論して考えてもらいたい。

A グループ

日本の社会保障制度における貧困層の負担の割合を先進諸国の制度をモデルとして見直すべきである。さらに貧困層の中の様々な家庭環境を加味した負担のシステムを作るべきである。

B グループ

他の先進国のように税制度や社会保障制度を改善する。例えば、社会保険料を徹底的に累進的にする。現時点ではベースの社会保険料が高いため貧困層への負担が大きくなっている。そこで社会保険料のベースを低くするといいと考えた。

C グループ

日本は他の先進国と比べて低所得者の所得が低いにもかかわらず、直接税と社会保険料の負担が大きい。そこで、他国の制度を取り入れて日本のスタイルに合ったものを用いて解消法を考える。

D グループ

表の 3－3 より、中位、高位の直接税と社会保険料の負担を引き上げるべきだ。特に高位の負担を引き上げればいいと思う。なぜならば、他の五か国と比較して日本の負担の割合が最も低いからだ。